

生じて倒れる特性をもち、葉の頂小葉は倒卵形で決して尖らず小葉柄は極めて短く、雌蕊の数少く、花柱は基から細そく長く初めはほぼ真直である。東京で両者をこの3年間栽培して比較したがはずきり区別ができ、キツネノボタンとは別種と認めてよいと思う。

17) コイワザクラとイワザクラ この両種は基準形では容易に識別できるが、往々その区別点として重視される花筒或は蒴果と萼との長さの比ははずきりしないことがある。各地からの色々な系統を栽培し生品で比較した結果、一番安定した両種の特徴は一見変り易いと思われる葉にあることが分つた。即ちコイワザクラ系では葉は概ね円く5-9浅裂し、少くも若い葉には上面にも通常白い顕著な毛が生えているが、イワザクラ系では葉は長味があつて卵円形となり縁に細かい歯牙があり、上面は粉状の微毛はあるが長い毛はなく平滑に見える。妙義山産は全体やや小形で葉の裂片は深く花筒は萼の倍以上の長さがあり、中井博士はシナノコザクラと同定されたが明かにコイワザクラ系で、その一型としてミョウギイワザクラと名付ける。コイワザクラ、オオミネコザクラ、ミョウギイワザクラは時に判別に苦しむ形があつて同一種であることは疑がない。遠江のナガバイワザクラはイワザクラそのものに近い。

この類の生品採集について援助して下さつた久内清孝、津山尚、山崎敬、佐藤邦雄その他の方々に深く感謝する。

### ○オニツルボの染色体 (得 居 修) Osamu TOKUI: On the Chromosomes of *Scilla scilloides* var. *major*

本誌 29 卷 3 号にオニツルボ (新変種として) を発表した時、ツルボの倍数体かもしれないと書いておいた。その後ツルボの染色体構成を調べておられる九州大学理学部野田照三氏よりオニツルボの分譲の依頼をうけ、早速お送りした。その後昨年 12 月 14 日付のおハガキで、芳賀・野田両氏より御研究の結果を知らせて下さつたので、ここに両氏の許可を得てそのままをのせて御参考にしたいと思います。

「..... 過日オニツルボの核型を観察しましたので御報告します。 $4x=34$  で、私共のきめたゲノム記号であらわせば、*AABB* の複二倍体です。しかし、植物研究雑誌に報告されたその個体の形態と、私共が福岡市近郊で採集した同じ核型の形態とを比較しますと、かなり差があるようで、生態型による相違があるのではないかと存じます。当方は種子稔性が高く、減数分裂でも 17II で、規則的な分離をします。農技研の栗山秀雄氏も、各地のツルボを調べておられますが、直接きいた所では、この核型のものが全国で最も広い分布を示し、生態型らしい分化もみとめられるそうです。」

以上、御報告下さつた芳賀・野田昭三両氏に厚く謝意を表します。(松山農科大学)